

安全旗の簡単な掲揚方法と 蟹田式KYTについて

蟹田営林署 ○基幹作業職員 沼田 求
平館中師森林官 相川 正四

1 はじめに

私たち、国有林の現場に働く者にとって、毎朝、出勤すると一番先に取りかかるのが安全旗の掲揚である。

毎日の作業は、「安全旗に始まり、安全旗に終わる。」と言っても過言ではない。

この毎日行われる安全旗の掲揚も、雨の日などには、いかに簡単に、かつ、早く行えるかがポイントとなる。勿論、安全を祈る気持ちに変わりはない。

そこで、このポイントを解決するため、お金をかけずに、簡単に作れるものがないか全員で真剣に議論した。

次に、安全旗と並んで毎日欠かせないのが、毎朝の危険予知訓練・KYTである。

指導された危険予知訓練は、内容があまりにも高度で、しかも、演技力も必要であることから、職場の皆が行えるようになっていないのが実態である。

そこで、危険と思われる要素を全員で理解する取組として考えたものである。

2 研究の方法および経過

安全旗の掲揚は、平成6年12月から実施しているがとても好評である。

安全を真剣に考え、皆が議論出来る職場のムードが、このような結果を生み出す基になっているものと考えている。

危険予知訓練は、幾分簡便ではあるが、危険予知訓練を行うことが大切であるという観点から私たちなりに、造林事業に適した内容に変えて、その日の作業に感謝し、作業の安全を願って考案した。

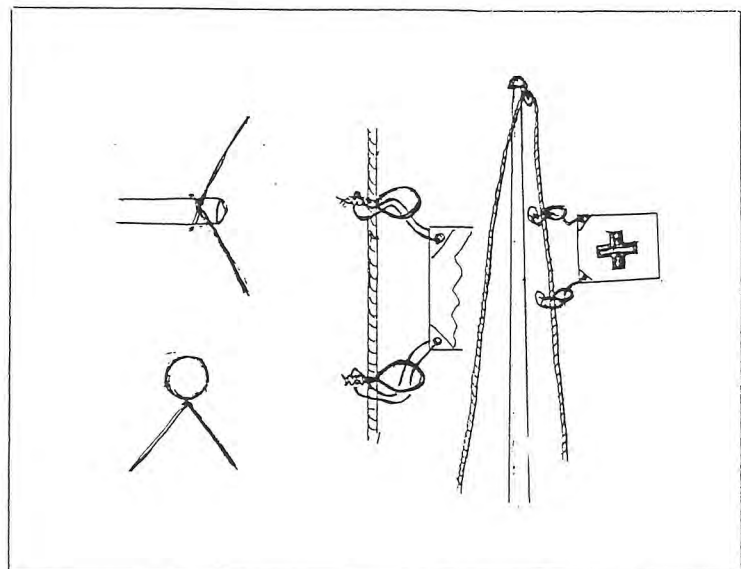
図 - 1 安全旗の掲揚方法

3 取組の結果

安全旗の掲揚について議論した結果出来たのが、図-1である。

この作品に使っているのは、針金と古いチューブである。

針金は16番線を使う。



この針金を旗竿のロープに取り付けますが、この取り付ける位置は、旗より上下とも約7cmほど長めの所とする。

それまで行っていた、旗竿のロープに紐で結わえ付ける方法より早く出来る。

危険予知訓練は、その日の作業の中から、特に危険と思われるもの1、2点にしぼって、それを皆で復唱し、無事故・無災害を願って黙禱する方法である。

この方法の良い点は、誰にでも出来ることであるが、反面、造林事業のような単純な工程にだけしか適用できないこと、また、危険要因の指摘項目が少ない等、改善を必要とするところもある。

私たちの職場では、今後、更に研鑽を重ね繰り返し行うことで、本来の危険予知訓練に近づけることも可能になったと考えている。

4 考察

安全旗については、金を掛けない方法としては精一杯の方法である。

危険予知訓練については、

①良い点として、誰でも気軽に参加できる。

②今後、改善すべき事項として、危険要因の指摘項目が少なすぎる。

5 おわりに

これからも無事故・無災害に向けて取り組んでいくことを誓い、日々の安全作業に努めたい。